

5. ポインセチアの新しい病気「褐斑病」（情報）			
[要約] 施設栽培ポインセチアの葉に多発した斑点性の障害は、国内未発生のアルタナリア属菌による新病害で、「褐斑病」と命名する。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

岡山県南部の施設栽培ポインセチアの葉に斑点性の障害が多発したので、原因究明を行い対策に資する。

## [成果の概要・特徴]

1. 葉の症状は初め、径 2~3mm、円~不整形、中心が淡褐色、周囲が茶褐色で、病斑の周辺部が黄緑色の小斑点を生じる。後に茶褐色、大型の不整形斑や葉脈に沿って拡大し、しばしば輪紋を呈する（図 1）。多数の病斑が癒合して葉枯れを起こし、落葉することもある。
2. 葉の病斑からはアルタナリア属菌が高率に分離された。分離菌はいずれも有傷および無傷接種でポインセチアの葉に黒褐色斑を生じ、しばしば落葉を引き起こした（表 1）。病斑部からは接種菌と同一の菌が再分離された。
3. 本菌は PDA 培地上で気中菌糸の少ない灰~暗褐色を呈する菌叢で、分生子形成はごくまれであった。5~30℃で生育し、最適生育温度は 25~30℃であった。
4. 葉の病斑上における本菌の分生子柄は、単条、淡褐色、長さ 70.0~122.5μm でやや屈曲し、暗褐色、長棍棒状、大きさ 30.5~125.0×4.5~23.5（平均 95.4×16.2）μm で、0~4 個の縦隔壁、4~11 個の横隔壁、平均 43.6×4.7μm の細長い単条のビークを有する分生子を単生、まれに数個鎖生した（図 2）。以上の形態は、海外のポインセチアで報告された *Alternaria euphorbiae* と類似するが、種名についてはさらに検討を要する。

以上の結果から、施設栽培ポインセチアの葉に多発した斑点性の障害は、国内未発生のアルタナリア属菌による新病害で、「褐斑病」と命名する。

## [成果の活用面・留意点]

1. 本病に対する登録薬剤はないので、病落葉の処分、施設内の湿度を低下させるとともに植物体を濡らさないなどの耕種的防除を行う。

[具体的データ]



図1 斑点症状が発生したポインセチア（左）と被害葉の拡大写真（右）



図2 分生子の形態（左）と分生子形成状況（右）（いずれもポインセチア葉上）

表1 分離菌のポインセチアに対する病原性

供試菌株	試験Ⅰ (2003年11月接種)		試験Ⅱ (2004年1月接種)
	有傷 <sup>a)</sup>	無傷	無傷
02-2	1/2 <sup>b)</sup>	1/2	4/4
02-3	2/2	2/2	—
03-1	2/2	2/2	3/3
03-2	2/2	2/2	3/3
03-3	—	—	3/3
PDA寒天片	0/2	0/2	0/5

a) 爪楊枝でせん孔後に接種

b) 発病箇所数／接種箇所数

[その他]

試験研究課題・事業名：病害虫・生育障害の診断と対策指導

予算区分：県単

研究期間：平成15年度

関連情報等：なし